

決算説明資料

2024年3月期 第3四半期

株式会社ユビキタスAI
代表取締役社長 長谷川 聡
2024年2月14日

Index

- 第3四半期業績 概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第3 四半期業績 概要

セグメント別業績 概況

- ・新型コロナウイルス感染症、ロシア・ウクライナ情勢によるサプライチェーンの影響が軽減したこと、並びに2023年4月に子会社化したライトストーン社及び同年10月に子会社化したグレープシステム社の業績が寄与し、売上高・営業損益ともに対前年同四半期比で大幅に改善
 - 連結売上高：2,100百万円（対前年同期比：71.3%増）
 - 連結営業損失：87百万円（前年同期営業損失：170百万円）

事業セグメント	売上高 営業損益	概況（対前年同期比）
ソフトウェアプロダクト事業	455百万円 9百万円	一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善
ソフトウェア ディストリビューション事業	743百万円 △78百万円	海外製品における既存顧客からのロイヤルティの上振れ、受託開発の増加と、為替差益による売上増に加えて、セキュリティ検証ツール・サービスの新規顧客への販売が増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善
ソフトウェアサービス事業	352百万円 △20百万円	受託開発売上は既存事業増加に加え、グレープシステム子会社化により増加するも、当四半期では同社の費用が上回り、対前年同期比で売上増加、営業損失微増
データアナリティクス事業	548百万円 2百万円	教育機関の既存顧客を中心としたパッケージソフト販売が堅調に推移

※グレープシステムの業績値は、データアナリティクス事業以外の事業に按分

2024年3月期連結業績予想の修正

■ 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	修正予算	期初予算			増減率	前年		前年差	増減率	開示要件
			増減率			増減率				
売上高	3,443	2,912	530	18.2%	1,938	1,504	77.6%	10%以上		
営業利益	150	20	130	652.0%	△84	234	△ 278.8%	30%以上or赤字化		
経常利益	148	20	128	642.0%	△76	224	△ 294.8%	30%以上or赤字化		
当期純利益※	97	5	92	1,848.2%	△148	245	-	30%以上or赤字化		

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

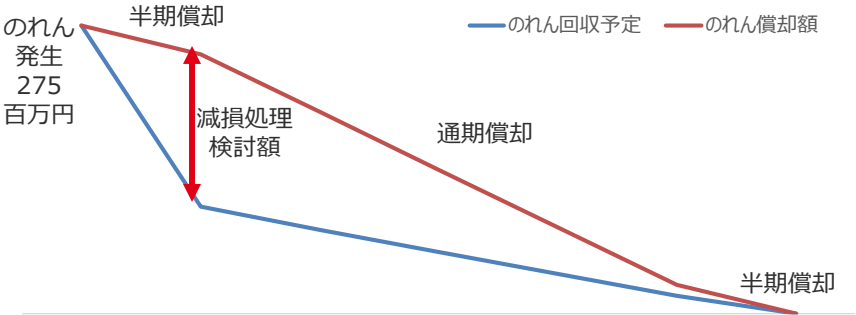
■ 修正の概要

- 売上高 +530百万円 グレープシステム取得（+540百万円）、及び内部取引消去によるもの
- 営業利益 +130百万円 グレープシステム取得（+130百万円／同社のれん償却予定額 27百万円 ※詳細下部記載参照）
- 当期利益 +92百万円 特別利益 +19百万円（2023/12/4開示、エイム投資株式売却益）
法人税等 +55百万円（費用増／グレープシステム下期税前利益128百万円＋のれん償却額の影響）

<通期営業利益予想額に関する、のれん償却の影響について>

グレープシステム取得に伴い発生するのれんは、同社が将来稼得すると予想される営業利益の額から、5年定額による償却を見込むも、同社は下期偏重の事業特性があり、25年3月期以降の通期営業利益が、24年3月期（下期）の営業利益を大きく下回る可能性があるため、24年3月末において、2025年3月期以降4年6カ月間の同社の通期営業利益予想額と同期末ののれん簿価とを鑑み、**減損処理を行う可能性があります。**

<のれん簿価の推移>



修正中期経営計画



製造業顧客が必要とする
テクノロジー・サービスを提供する会社

2027年3月期目標値
売上：5,000M
営業利益：10%

組込みソフトウェア会社としての事業基盤強化と、
B2B Tech Biz Platformの取組による事業成長を
実現

2023/3期

売上：1,938M
営業利益：△84M

- ・ビジネスプラットフォーム、ツール製品、QuickBoot 海外展開への先行投資

2024/3期

売上：2,912M ⇒ 3,443M
営業利益：20M ⇒ 150M
(のれん償却前 217M)

- ・ M&A実現による売上目標の上方修正
- ・ 変化した市場に対応すべく、将来の収益力強化のための自社製品開発強化・成長分野・新規事業への積極的な投資

2025/3期

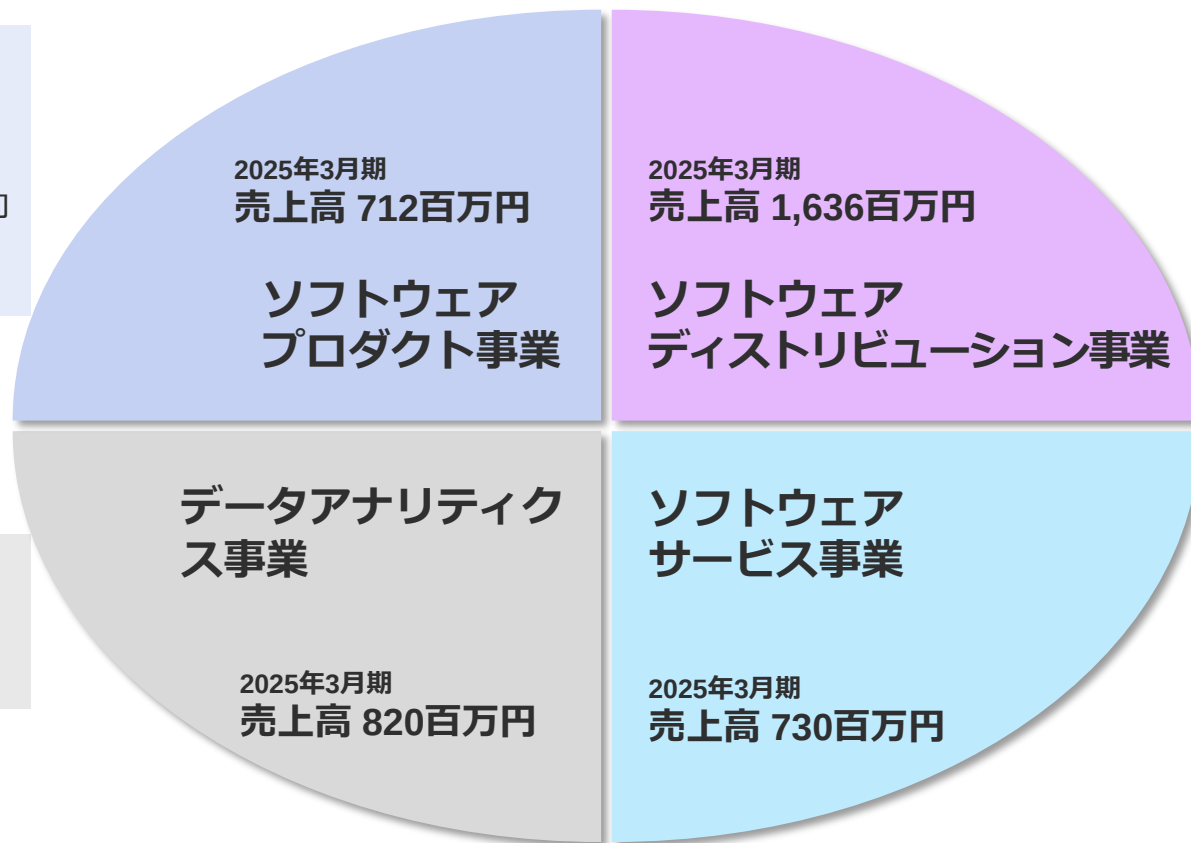
売上：3,100M ⇒ 3,900M
営業利益：40M ⇒ 40M
(のれん償却前 100M)

- ・ 将来の収益力強化のための開発・事業投資継続
- ・ 引き続きM&A、資本提携などに積極的に取り組み、2027年3月期売上目標の達成を目指す

事業分野別目標

- 高速起動製品を収益の核とした事業展開、製品力・収益強化に必要なR&D（半導体・OS対応）を推進し、車載機器を中心にLinux/Android搭載機器向けに幅広く展開
- 自動車・IoT分野を中心とした組込み機器向けネットワーク・セキュリティ関連製品の展開を、パートナー協業を含めて推進

- パッケージ製品を中心とした安定した売上
- AIの普及に伴いニーズが高まる統計などのデータ解析機会の増加に対する確実なアプローチ



- 海外製新商品獲得を推進し売上を拡大
- ソフトウェア開発品質向上支援ツールの取扱拡充とサイバーセキュリティ重要増に対応するサービス事業の強化
- 海外パートナーとの強固な関係構築による長期的な販売権の確保と日本のニーズに合わせた製品化

- M&Aに伴う受託開発売上の追加と、開発体制強化によるグループ全体での案件獲得増を実現する

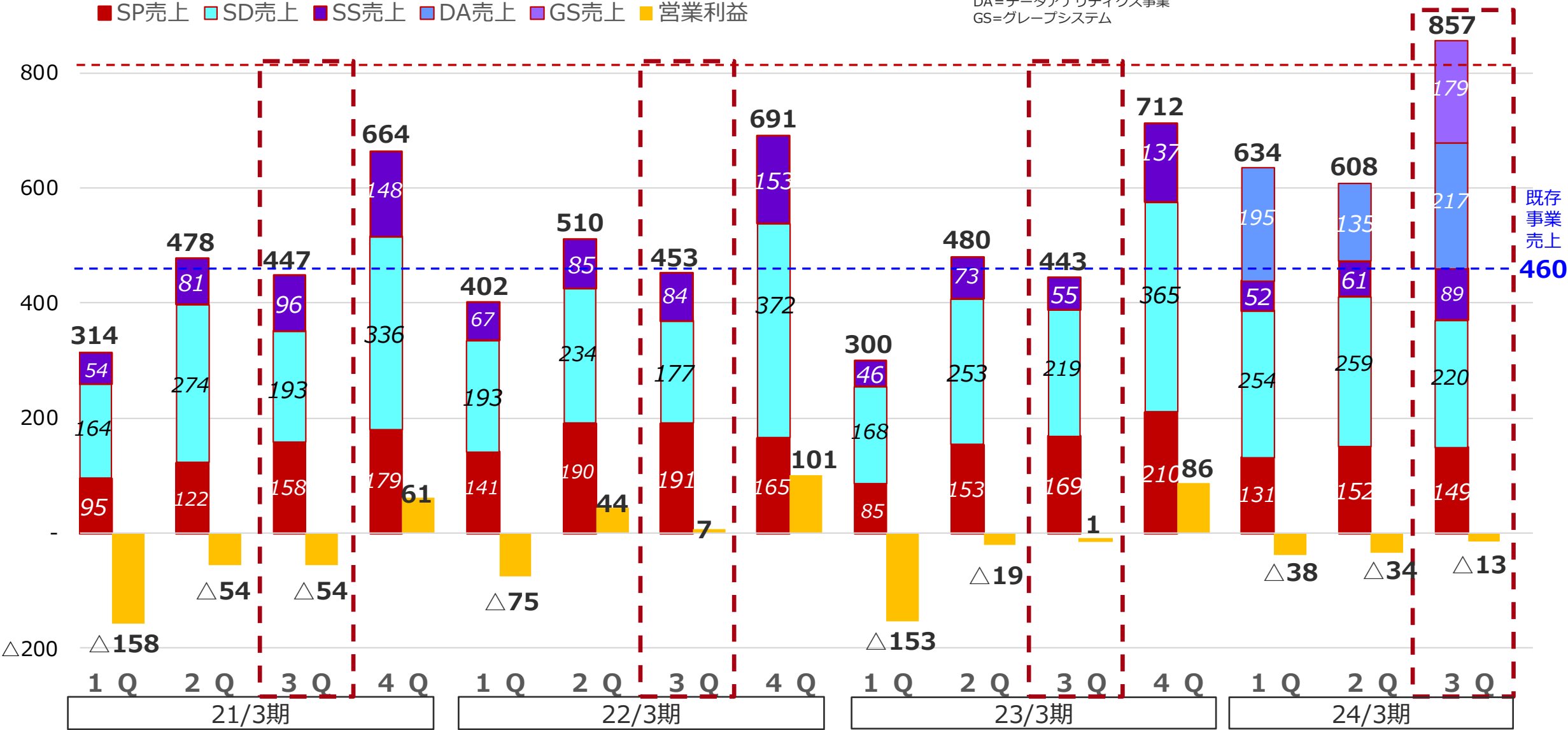
製造業顧客に必要なテクノロジー・サービスを提供する会社として
製造業向けビジネスプラットフォームによる「場」の提供を通じた事業成長を実現

2025年3月期に連結売上高3,900百万円、営業利益40百万円（のれん償却前100百万円）
2027年3月期に売上高5,000百万円、営業利益率10%以上を目指す

四半期別 売上高・営業損益の推移

(注) : SP=ソフトウェアプロダクト事業
SD=ソフトウェアディストリビューション事業
SS=ソフトウェアサービス事業
DA=データアナリティクス事業
GS=グレイプシステム

(単位 : 百万円)



対前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

				24/3期 3Q (連結)	23/3期 3Q (連結)	増減額	増減率 (%)
		従前の セグメント	グレース システム				
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	432	22	455	409	46	11.4
	セグメント利益	12	※2 △2	※2 9	△44	54	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	735	7	743	641	101	15.8
	セグメント利益	△77	※2 △1	※2 △78	△120	41	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	203	148	352	174	177	101.5
	セグメント利益	26	※2 △47	※2 △20	△5	△14	-
データアナリティクス事業	売上高	548	-	548	-	548	-
	セグメント利益	※1 2	-	※1 2	-	2	-
合計	売上高	1,920	179	2,100	1,225	874	71.3
	セグメント利益	※1 △36	※2 △51	※3 △87	△170	83	-

(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 29百万円を含めております。

※2 株式会社グレースシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 13百万円を含めております。

尚、当該のれん償却額は、同社が営むデータアナリティクス事業以外の各事業に按分しております。

※3 上記ののれんの償却額 43百万円を含めております。

対前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		24/3期		23/3期	増減額	増減率 (%)
		従前の セグメント	グレイプ システム	3Q (連結)		
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	432	22	455	46	11.4
	セグメント利益	12※2	△2	※2 10	△44	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	735	7	743	101	15.8
	セグメント利益	△77※2	△0	※2 △78	△120	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	203	148	352	177	101.5
	セグメント利益	26※2	△34	※2 △7	△5	-
データアナリティクス事業	売上高	548	-	548	-	-
	セグメント利益	※1 32	-	※1 32	-	-
合計	売上高	1,920	179	2,100	874	71.3
	セグメント利益	※1 △6	※2 △37	※3 △44	△170	-

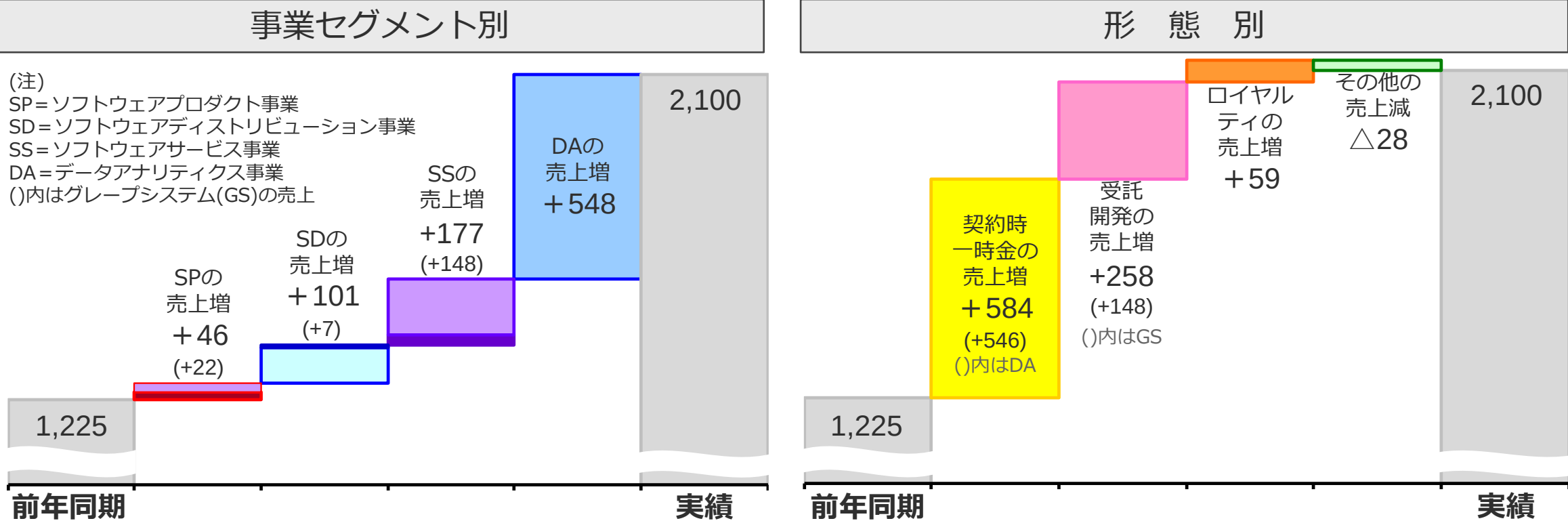
(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 29百万円を含めておりません。

※2 株式会社グレイプシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 13百万円を含めておりません。

※3 上記ののれんの償却額 43百万円を含めておりません。

対前年同期比：売上高（セグメント別及び形態別）

(単位：百万円)



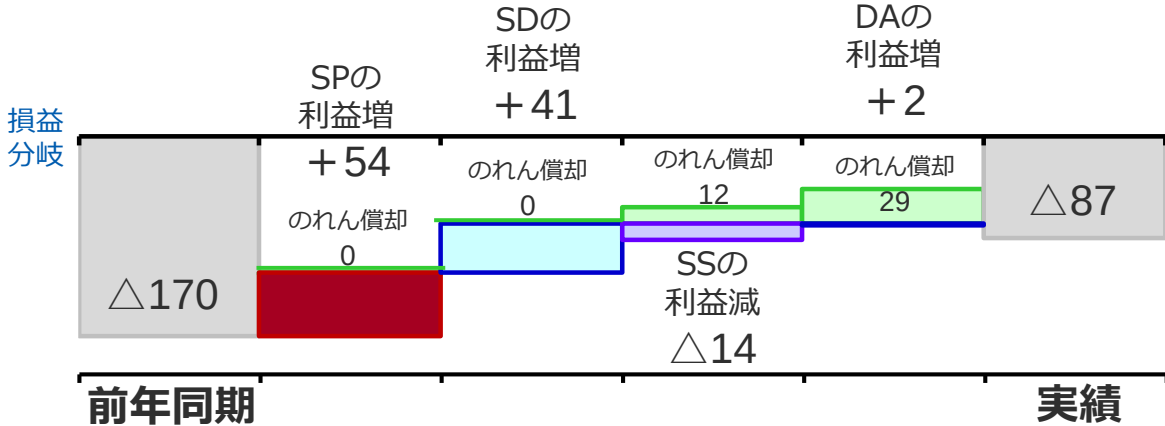
■ コロナ禍からのロイヤルティ売上の回復等、およびDA事業セグメントの追加により、前年同期を大幅に上回る

- SP事業：一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加
- SD事業：海外製品における既存顧客からのロイヤルティの上振れ、受託開発の増加と、為替差益による売上額増に加えて、セキュリティ検証ツール・サービスの新規顧客への販売が増加
- SS事業：受託開発売上が既存事業およびグレープシステム子会社化により増加
- DA事業：教育機関の既存顧客を中心としたパッケージソフト販売(契約時一時金)が堅調に推移

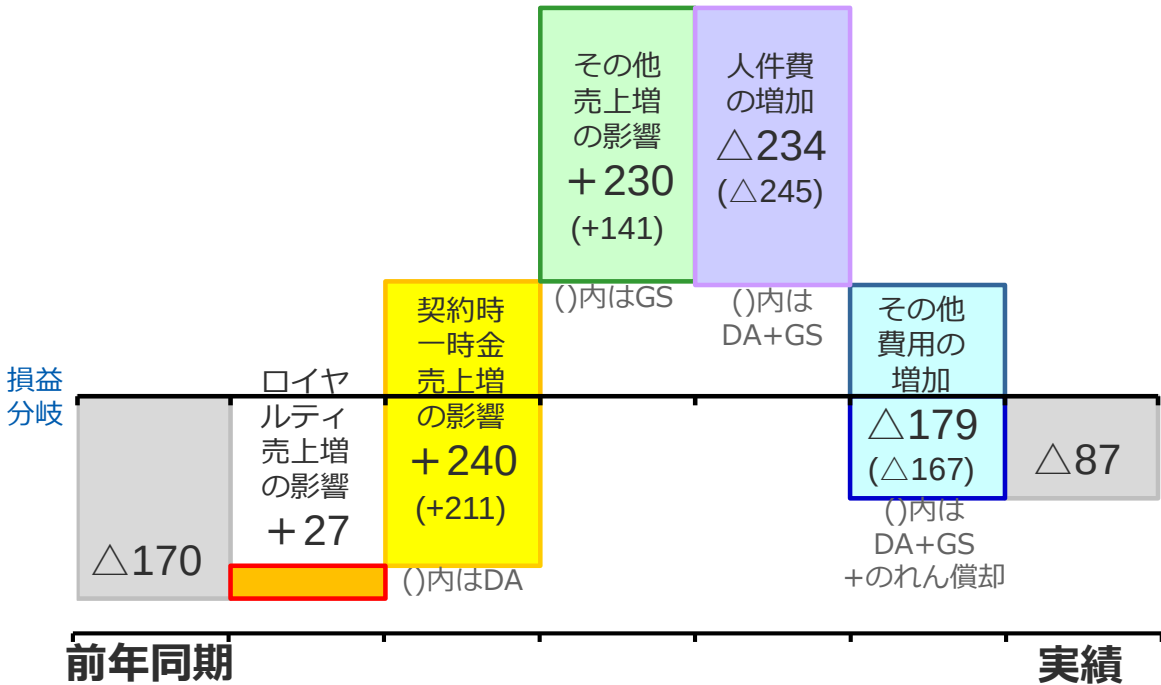
対前年同期比：営業利益（セグメント別及び費目要因別）

（単位：百万円）

事業セグメント別



費目要因別



■ 既存事業の売上増、およびDA事業セグメントの追加により、前年同期を大幅に上回る

- SP事業：一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加
- SD事業：海外製品における既存顧客からのロイヤルティの上振れ、受託開発の増加と、為替差益による売上額増に加えて、セキュリティ検証ツール・サービスの新規顧客への販売が増加したことにより営業損益改善
- SS事業：受託開発売上が既存事業およびグレープシステム子会社化により増加するも、3Qでは同社の費用が上回り、営業損失微増
- DA事業：子会社化に伴い事業セグメント追加

連結損益計算書

(単位：百万円)

	24/3期 3Q	23/3期 3Q	増減
売上高	2,100	1,225	874
売上原価	1,213	711	502
売上総利益	886	514	372
販管費	973	684	288
営業利益	△87	△170	83
営業外損益	17	10	6
経常利益	△70	△160	90
特別損益	18	-	18
税金等調整前利益	△51	△160	109
法人税等	9	4	5
四半期純利益 ※	△61	△164	103

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

(単位：百万円)

	23/12月末	23/3月末	増減
現金・預金	1,446	1,114	331
受取手形・売掛金・契約資産	612	636	△23
有価証券	-	400	△400
棚卸資産	31	2	28
前払費用	75	56	19
その他流動資産	36	29	7
流動資産	2,202	2,239	△37
子会社株式	-	-	-
のれん	467	-	467
その他固定資産	849	581	267
固定資産	1,316	581	735
資産合計	3,519	2,821	698

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)

	23/12月末	23/3月末	増減
買掛金	137	149	△12
短期借入金※	373	-	373
未払金	84	70	13
契約負債	122	95	27
その他流動負債	107	66	41
流動負債	825	381	443
長期借入金	86	-	86
繰延税金負債	56	69	△12
その他固定負債	60	239	179
固定負債	452	129	323
資本金・資本剰余金	2,936	2,936	-
利益剰余金	△835	△774	△61
その他純資産	140	147	△7
純資産	2,241	2,309	△68
負債・純資産合計	3,519	2,821	698

※短期借入金：短期借入金 + 1 年内返済予定の長期借入金

通期業績予想（連結）に対する進捗

(単位：百万円)

	通期 業績予想	第3四半期 実績	進捗率 (%)
売上高	2,912	2,100	72.1
営業利益	20	△87	—
経常利益	20	△72	—
純利益	5	△109	—

修正通期業績予想（連結） に対する進捗

(単位：百万円)

	修正通期 業績予想	第3四半期 実績	進捗率 (%)
売上高	3,443	2,100	61.0
営業利益	150	△87	—
経常利益	148	△72	—
純利益	97	△109	—

(注) 通期営業利益予想額については、前述の通り、のれん減損の影響を受ける可能性があります

セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

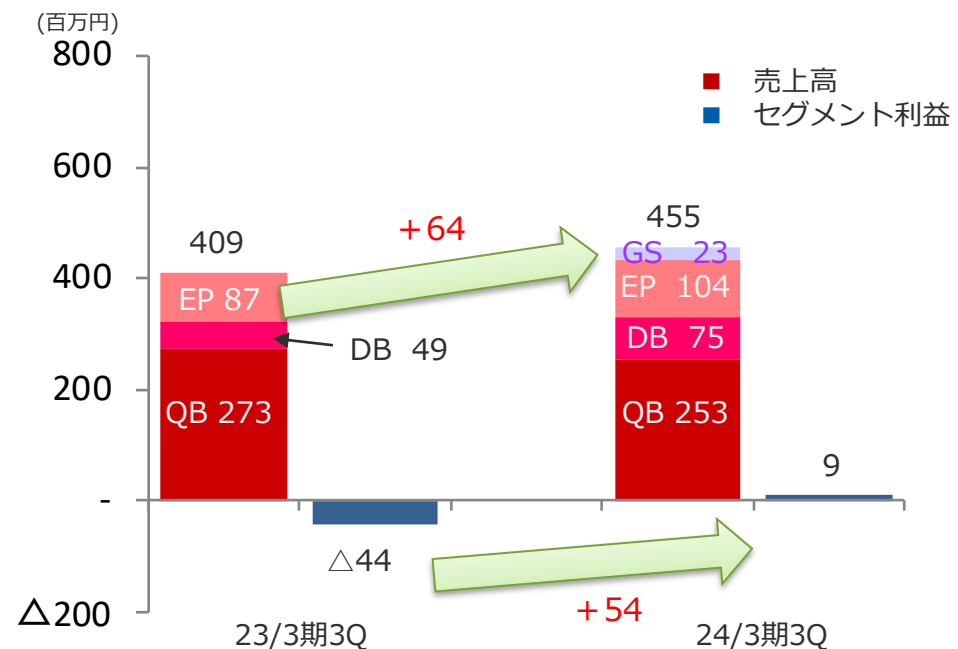
ソフトウェアプロダクト事業

■ 当期注力取り組み

- 高速起動製品における次世代プラットフォーム対応強化と海外展開による更なる事業成長
- IoT製品の脆弱性に対する懸念の高まりに応えるためのセキュリティ製品の販促・提案強化

■ 当四半期概況

- 一部既存顧客製品の生産終了によりロイヤルティ売上が減少したが、コロナ禍の影響を受けた他顧客からのロイヤルティ売上が回復、契約時一時金売上、受託開発売上が新規案件獲得で増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善
- 製品別概況
 - 高速起動製品：国内外の車載機器関連および海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティを中心に売上高253百万円（前年同期比△20百万円）、既存顧客の一部製品生産終了により、前年同期に比較してロイヤルティが減少
 - データベース製品：産業機器の既存顧客が製品生産の回復によりロイヤルティが増加、75百万円の売上計上（前年同期比+26百万円）
 - エンベデッドプラットフォーム製品：車載機器関連、医療および産業機器の既存顧客からの契約時一時金および受託開発費用を中心に104百万円の売上計上（前年同期比+17百万円）
 - グレープシステム製品：QRコード、プリンタ関連製品と音声コード製品の既存・新規顧客への販売および契約時一時金を中心に41百万円の売上計上



※QB: 高速起動製品
※DB: データベース製品
※EP: エンベデッドプラットフォーム製品
※GS: グレープシステム製品

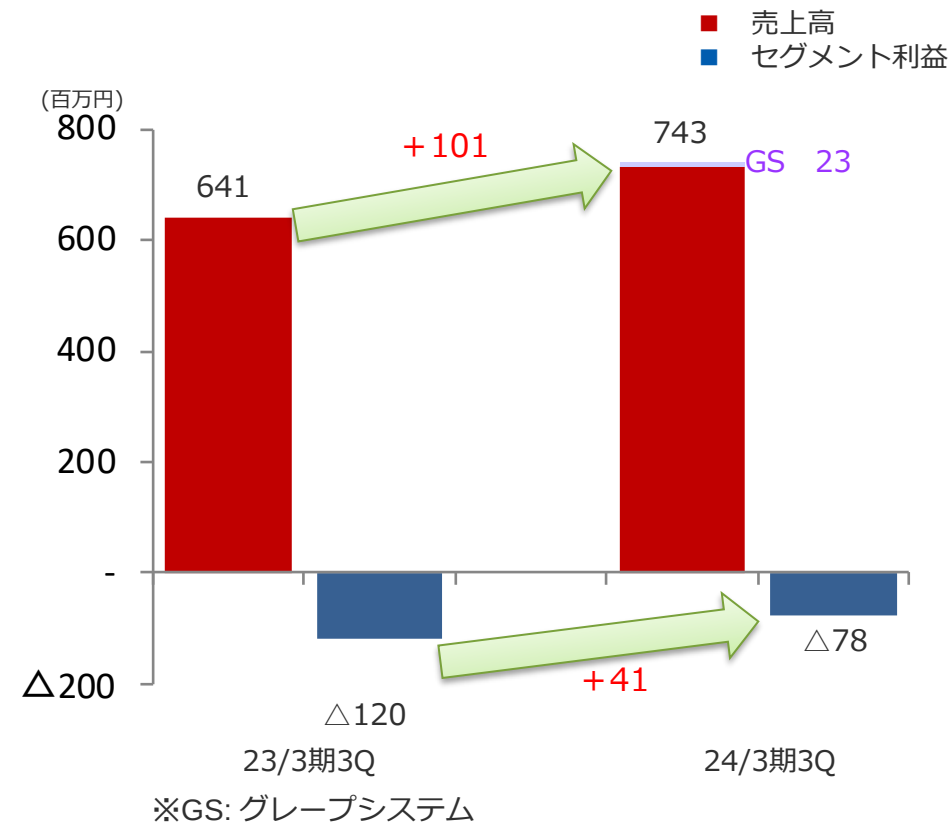
ソフトウェアディストリビューション事業

■当期注力取り組み

- 市場と顧客からの需要が高まっている、車載ECU開発、静的コード解析およびセキュリティ検証ツール・サービスの拡販
- 積極的な海外製新商品の獲得を推進し、販売機会と売上の増加を見込む
- グレープシステム取扱製品の追加に伴う、製品ラインアップ全体の見直し

■当四半期概況

- 海外製品における既存顧客からのロイヤルティの上振れ、受託開発の増加と、為替差益による売上額増に加えて、セキュリティ検証ツール・サービスの新規顧客への販売が増加したことにより、対前年同期比で売上増、営業損益改善



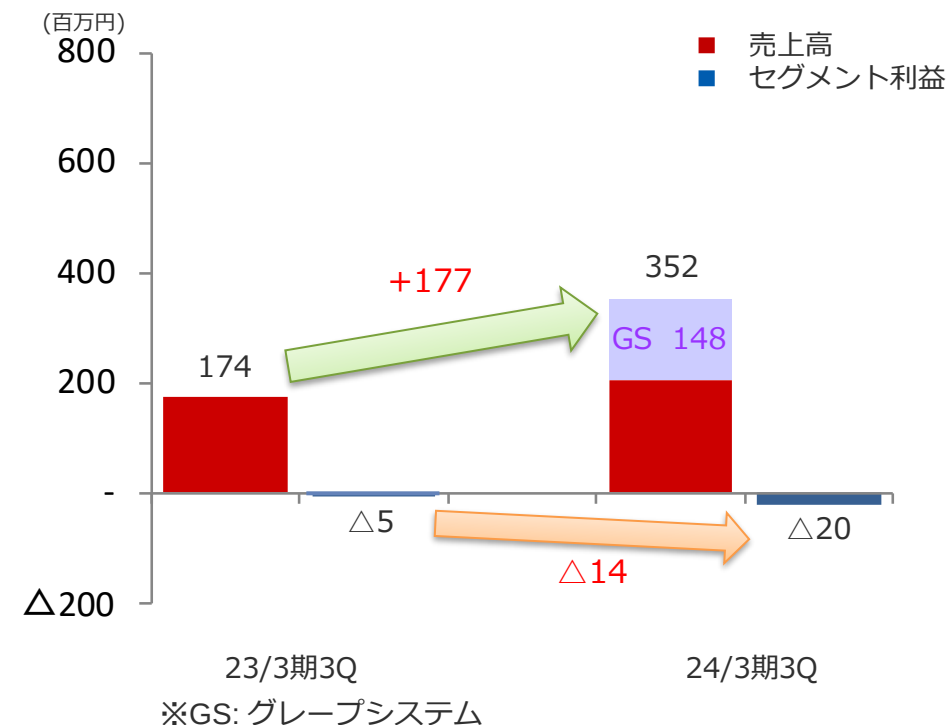
ソフトウェアサービス事業

■ 当期注力取り組み

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的確保と、協業提案による新たな取り組み
- 車載機器のCD再生機能搭載率低下による「YOMI」ライセンスの減少を補うためのストリーミングメディアなど新たな分野へのアプローチや受託開発案件の強化
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現

■ 当四半期概況

- 受託開発売上が既存事業およびグレープシステム子会社化により増加するも、当四半期では同社の費用が上回り、対前年同期比で売上増加、営業損失微増
- データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上



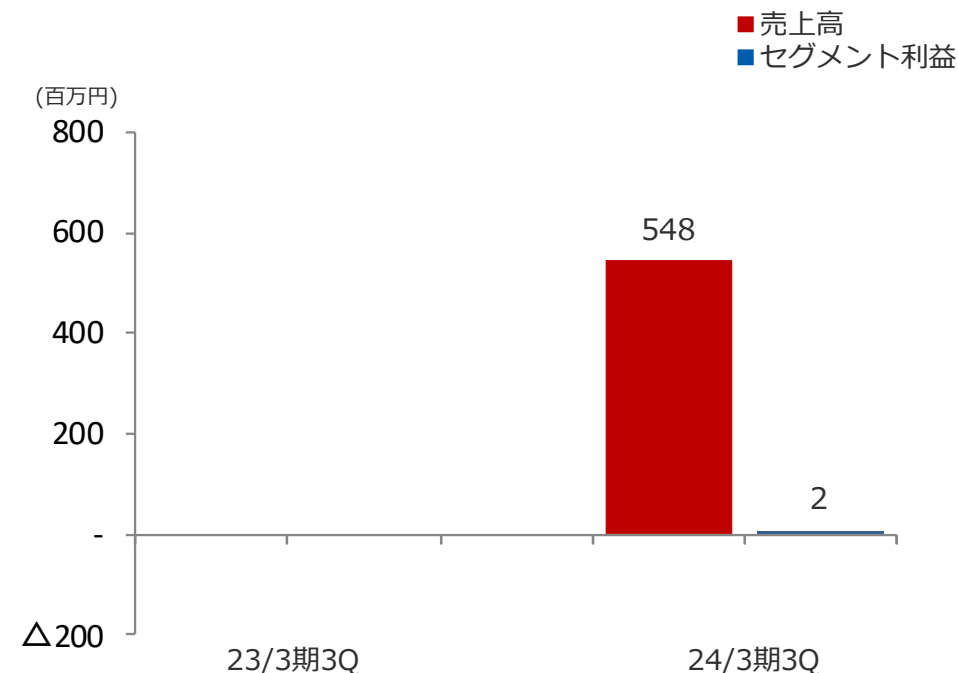
データアナリティクス事業

■ 当期注力取り組み

- 主力ソフトウェア製品（Origin、Stata）を中心とした教育機関、政府研究機関、企業の調査部門への販売
- デジタルマーケティングによるインバウンドセールス強化
- 既存顧客への販促強化による、サブスクリプション（年間使用料）、メンテナンスの更新率向上

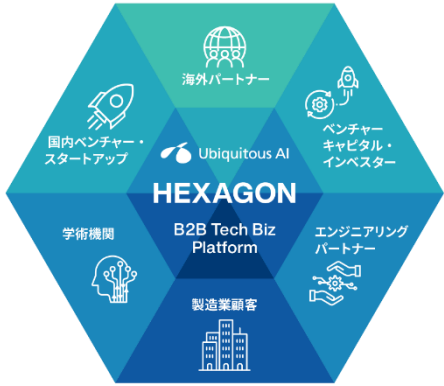
■ 当四半期概況

- 教育機関を中心にパッケージソフト売上を計上



トピックス

HEXAGON Update - 取組状況



- ・賛同企業・団体：**68**（2024/1/31現在、HEXAGON発表2022/6/22～19ヶ月、一部連携団体含む）
- ・ベンチャーキャピタル、スタートアップ支援企業からのご紹介によるスタートアップとの販売提携・事業連携が多数実現
- ・賛同スタートアップの資金調達ニーズに応じたベンチャーキャピタルへの紹介を開始
- ・弊社や他の賛同スタートアップの製品・サービス・技術を組み合わせたソリューション化検討を開始
- ・大手企業とのモノ作りスタートアップ向け支援プログラムを開始
- ・B2Bテックスタートアップからの幅広い賛同が実現

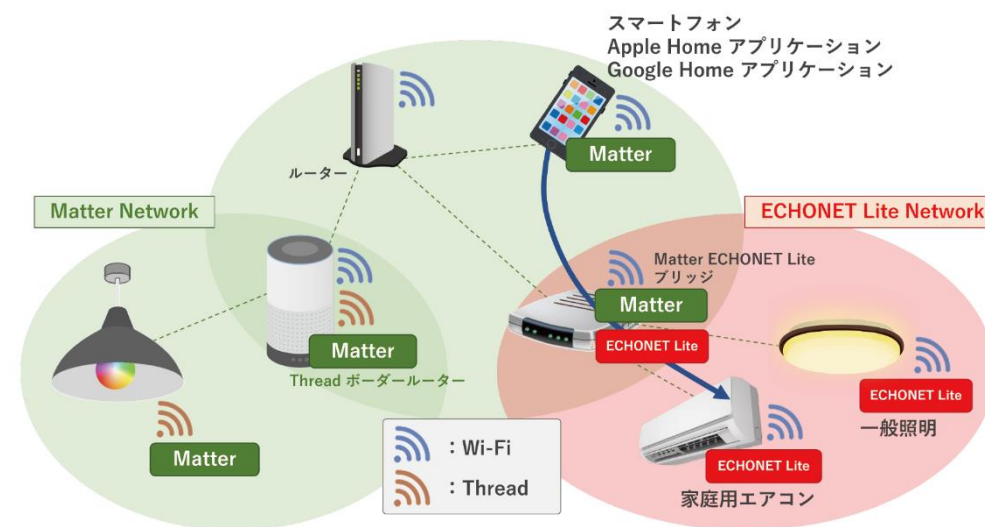


スマートホーム規格「Matter」と「ECHONET Lite」のブリッジ機能を提供開始（10/13）

スマートホームの課題の解決を解決する Ubiquitous ECHONET Lite SDK Matterブリッジ対応版

■MatterコントローラーからECHONET Lite機器を操作

- Matter標準仕様ではサポートされていないECHONET Lite機器をブリッジで使用可能
- Ubiquitous ECHONET Lite SDKに搭載して提供
- Amazon AlexaやGoogle Home対応スマートスピーカーなどのMatter規格対応コントローラーからもECHONET Lite対応スマート家電やスマートエネルギー関連機器を操作できるので、ユーザーの利便性が向上



MatterとECHONET Liteブリッジによるスマートホームの拡張

九州進出のための研究開発・ビジネス拠点を北九州市に開設（11/10）

北九州市のモノづくり基盤 × ユビキタスAIの半導体向けソフトウェア技術

■北九州市と半導体ビジネス拡大で連携

- 北九州ビジネスイノベーションセンターを設置
- 主な取り組み
 - 半導体向けソフトウェア開発人材育成
 - スタートアップとの連携
 - 地域企業のDX促進
 - 地域人材活用による事業機会創出
- 九州のスタートアップや地元企業と共創し、北九州市や九州地域の発展に貢献



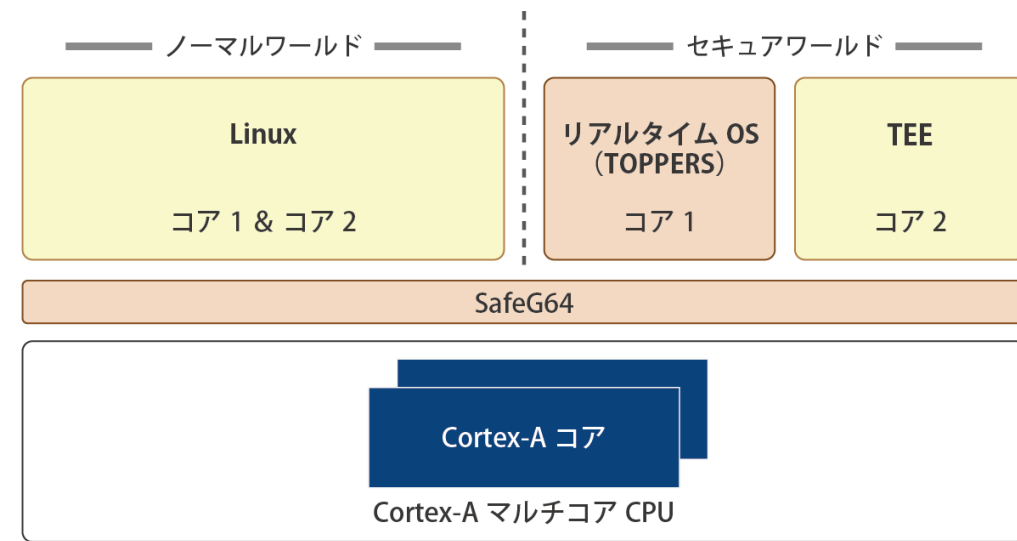
新規事業創出や事業機会拡大ための要素が揃う北九州市

「SafeG64」とTEEの共存技術を開発（11/15）

SafeG64を使ったマルチOSシステムでLinux側からTEEの使用が可能に

■ TEE（Trusted Execution Environment）を使ってセキュアな動作環境を構築

- SafeG64を使ったマルチコアのシステムでLinux、TEEとTOPPERSカーネルを共存・同時動作させる技術を開発
- CPUメーカーやLinuxが提供する標準的な仕組みを使ってより堅牢なセキュリティ環境を構築できるので、安全・安心なシステムをベースにした製品設計を、低工数・短期間で実現
- 「TOPPERS-Pro」の拡張機能として2024年度前半に発売予定



※2 コアのCPU の例

SafeG64とLinux、リアルタイムOSおよびTEEの共存イメージ

Appendix

2024年3月期 第3四半期 開示一覧

発表日	概要
10月13日	スマートホーム規格「Matter」と「ECHONET Lite」とのブリッジ機能を提供開始
11月10日	ユビキタスAIと北九州市が半導体ビジネス拡大で連携、九州進出のための研究開発・ビジネス拠点を北九州市に開設
11月15日	マルチOS向け環境「SafeG64」とTEE（Trusted Execution Environment）の共存技術を開発
11月15日	B2B Tech Biz Platform「HEXAGON」にSTマイクロエレクトロニクス社の製品・技術を追加
12月21日	B2B Tech Biz Platform「HEXAGON」、新たに株式会社LegalOn Technologiesのサービスの取り扱いを開始



Ubiquitous AI